

ロマンは実を結ぶ

福岡地方本部

No.218



12月の磯は体力と寒さの勝負



「クロ(メジナ)の部」優勝?

「クロ(メジナ)の部」優勝? ウトドア環境で、一夜を過ごしました。周りに電気がないため、星空はプラネタリウムに引けをとらないほど満天に輝いており、流れ星も見ることができました。しかしながら、12月の磯は魚を釣る集中力はもちろんのこと、体力と寒さとの勝負でもあり、精神力が磨かれます。

釣った自信のある魚を選び、魚の大きさ(長寸)や重量を競い合います。大会当日は、「あじか磯釣りセンター(長崎県・平戸)」を会場・現地対策本部とし、早朝5時に開会式をおこなったあと、日本有数の磯船で磯(岩礁)へ渡り、翌日の11時まで、電気・ガス・水道のない最高のアウトドア環境で、一夜を過ごしました。周りに電気がないため、星空はプラネタリウムに引けをとらないほど満天に輝いており、流れ星も見ることができました。しかしながら、12月の磯は魚を釣る集中力はもちろんのこと、体力と寒さとの勝負でもあり、精神力が磨かれます。

聖地五島列島の磯釣り大会

福岡地本では、12月に、地本主催のレクリエーションとして、釣り人なら知っている聖地「五島列島(長崎県)にて、磯釣り大会を開催しています。今回は、「第14回磯釣り大会」と銘打って、12月2〜3日の2日間の日程で開催しました。グループ会社の方々も含め、毎年30名ほどの組合員が参加しています。



これぞ最高のアウトドア

今回は、「第14回磯釣り大会」と銘打って、12月2〜3日の2日間の日程で開催しました。グループ会社の方々も含め、毎年30名ほどの組合員が参加しています。今回は、「あじか磯釣りセンター(長崎県・平戸)」を会場・現地対策本部とし、早朝5時に開会式をおこなったあと、日本有数の磯船で磯(岩礁)へ渡り、翌日の11時まで、電気・ガス・水道のない最高のアウトドア環境で、一夜を過ごしました。周りに電気がないため、星空はプラネタリウムに引けをとらないほど満天に輝いており、流れ星も見ることができました。しかしながら、12月の磯は魚を釣る集中力はもちろんのこと、体力と寒さとの勝負でもあり、精神力が磨かれます。



2018春季生活闘争妥結にあたっての中央闘争委員会見解

JR西労組中央闘争委員会は、本日2018春季生活闘争の最終交渉に臨み、基準昇給の実施に加え、純ペア1,200円、年間臨給5.66箇月分、シニア・シニアリーダー社員の精励手当の増額及びシニア雇用初年度の1回目からの支給、契約社員の精励手当の増額、時間給10円引き上げのほか、東京地区の帰省等交通費の改善等の回答を引き出し、さらに同一労働・同一賃金に向けた検討を法改正を待たず開始することや労働力確保に向け我々が求めていた駅の業務執行体制の見直しについても議論を開始することが口頭表明され、大きな成果を確認して席上妥結した。

JR西労組は連合・JR連合方針に基づき、月例賃金総額6,000円以上の引き上げ、純ペア3,000円、年間臨給5.7箇月、シニア・シニアリーダー社員・契約社員の賃金改善、エリア手当、退職手当、55歳以降基本給調整率廃止等を中心とする要求を提出し、JR西日本の堅調な経営動向を背景に、組合員と家族の負担に配慮べく、成果の公正な配分を求めて精力的な交渉を重ねてきた。

今春季生活闘争は、世界経済の不透明感や先進国における賃金の伸び悩みなど懸念すべき点はあるとしながらも、日本経済の緩やかな景気拡大の中で、JR西日本の経営動向は、昨年比増収増益で収入・利益ともに過去最高を更新し、組合員の期待が高まる闘いとなった。

我々鉄道業は、業績が大幅に上下せず、安定的、永続的に鉄道を核にサービスを提供し、長期雇用を通じて技術・技能の向上を培っていくことが重要であるとの認識を踏まえ、安定的な配分を持続させることが組合員の生活の改善、労働意欲や求心力の向上につながると主張し5年連続のペースアップにこだわり議論を行ってきた。また、今年度は、社会的な労働力不足の中、どのように働き方改革やワーク・ライフ・バランスを進めていくかという大きな課題認識のもと、具体的には国会での長時間労働の是正や正規・非正規の同一労働・同一賃金の議論を注視したうえで、議論を先取りし交渉を展開してきた。しかし、会社は、最終年度となる中期経営計画における主要財務指標等の目標値を上回る業績を計上できる見込みとしながらも、今後の景気動向や人口減少、老朽取替をはじめとする各種経費の増加が見込まれる厳しい経営環境の中で、次期中期経営計画を念頭に置いて検討を進める必要があると賃上げに対して慎重な姿勢を貫き、接点の見出しにくい交渉となった。

最終局面では大手企業の賃上げ回答が昨年を上回る中、重大インシデントへの対応などもあり厳しい状況となったが、中央闘争委員会は、組合員とその家族の熱い思いを受けて、生涯賃金の増加につながるペアを最優先に、徹底してこだわる粘り強い闘いを続け、最終的に純ペア1,200円、中計達成見込みの成果配分を含めた年間臨給5.66箇月を中心とする成果を勝ち取った。そして、2014年からの5年連続のペアにより、4,450円の純ペアを積み上げたことは非常に大きな成果である。

今春季生活闘争も撤布行動や各級機関の春闘集会等への積極的な参画により、中央闘争委員会を精力的に支えていただいたすべての組合員と家族の皆様にご心より感謝申し上げます。今後、両バス地本、広島病院支部、宮島フェリー支部、JR西日本連合に結集する労組の交渉が本格化する。この成果を活かして相乗効果が発揮されるよう最大限支援していく。

最後に、今後も新幹線重大インシデントへの対応を含め安全を基礎に、会社の健全な発展を通じて私たちの地位の向上へ邁進していく決意を明らかにし、2018春季生活闘争妥結にあたっての中央闘争委員会の見解とする。

2018年3月14日

西日本旅客鉄道労働組合(JR西労組) 2018春季生活闘争中央闘争委員会

要員不足解消のためにもペアを! (2/22 西バス地本)

西バス地本は2月22日に地方委員会を開催し、50名が集まった。西原委員長は、安全、組織、春闘、政治などの課題を熱く語った。7名の委員から「事故発生時の教育は、再発防止に特化を」、「要員不足解消のためにもペアにこだわった春闘を」などの発言があった。終了後はただちに、西バス会社に対して、要求書を提出した。



基本給調整率の撤廃を! (2/28 中バス地本)

中バス地本は2月28日に地本委員会を開催し、25名が集まった。久禮田委員長は、冒頭、安全の確立、2018春闘、組織の充実・強化、政策課題の対応などについて、挨拶した。6名の委員から労働安全を含めた安全確保、要員不足の解決、働き方改善、55歳以降の基本給調整率の撤廃を求める発言などがあった。終了後は、ただちに中バス会社に対して、要求書を提出した。



懸命に努力する組合員へ公正配分を! (2/28 広島病院支部)

広島病院支部は、2月28日、2018年賃金引上げ・年間臨給及び総合生活改善に関する要求書を提出した。2016年4月に新たな医療法人「JR広島病院」が発足して2年が経過し、経営状況は堅調に推移している。これは、病院存続のため、懸命に努力している組合員の汗の結晶である。今日までの取り組みに対し、「働きがいと誇り」の持てるJR広島病院の実現に向けて、利益を公正配分し、組合員とその家族の期待に応える賃金及び手当等を求め、申し入れを行った。



過去最高の来島者に報いる成果を! (2/9 宮島フェリー支部)

宮島フェリー支部は、2月9日、JR西日本宮島フェリー会社に対し、2018年賃金改定及び総合生活改善等に関する要求書を提出した。昨年は、過去最高の456万人の来島者を迎え、今年度収入も順調に推移している。要員が逼迫するなかで努力してきた組合員と家族の期待に応え、働きがいと誇りを持てる賃金の引き上げを求め、要求の主旨説明を行い、誠意ある回答を求めた。



外国籍総合職採用組合員と意見交換会を開催!

3月5日、JR西労組中央本部は、2017年4月から採用している外国籍総合職採用の組合員と、所属(営業本部 瑞風推進部・ベトナム)、テリ・ニューエーさん(京都駅・ミヤンマー)グエン・ハイダンさん(関西空港駅・ベトナム)、チウ・アイインさん(新神戸駅・マレーシア)の4名。まず、それぞれが自己紹介を行い、JR西労組の活動や取り組みについて、本部から説明を受けた後、現在の仕事の状況や日本で働く上で困ったことなど、活発な意見交換を行った。JR西労組中央本部として、これからの活躍を応援していくこと、頂いた意見は交渉に反映し、課題の解決を図っていくこと、今後も定期的に意見交換を行うこと、終了した。



4人と定期的な意見交換を約束

西バス、中バス、広島病院支部、宮島フェリー支部で闘い始める!